

# 大分川水系河川整備基本方針および 大野川水系河川整備計画 変更について

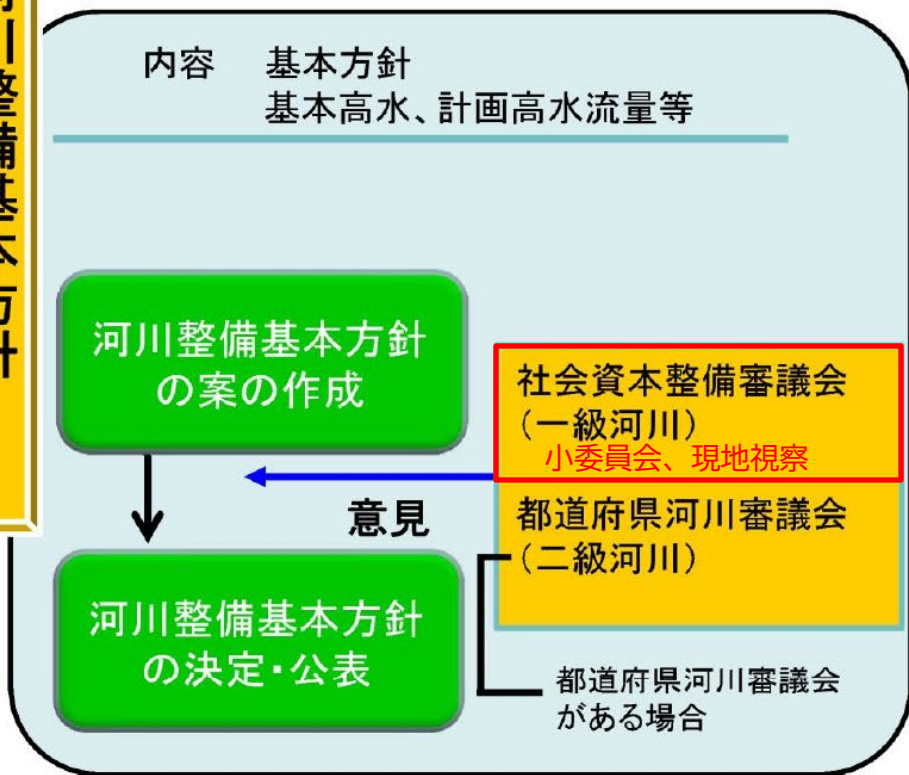
令和8年5月(書面決議)

大分川・大野川水系流域治水協議会

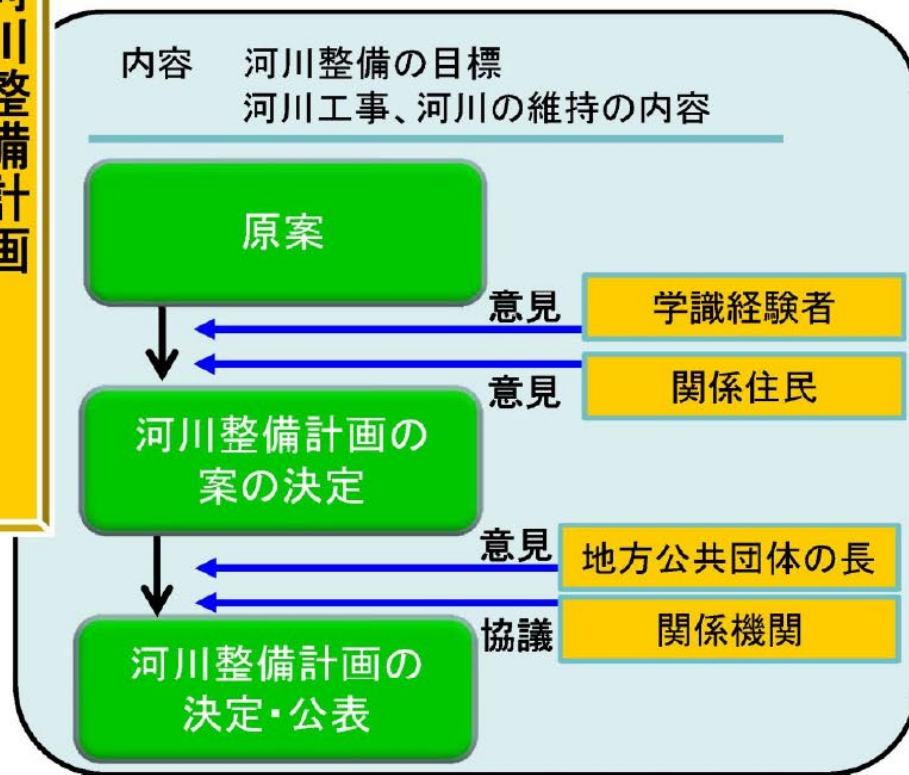
大分川・大野川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

# 河川整備基本方針と河川整備計画について

## 河川整備基本方針



## 河川整備計画



## 河川工事・河川の維持

### (河川整備基本方針)

第一六条 河川管理者は、その管理する河川について、計画高水流量その他当該河川の河川工事及び河川の維持（次条において「河川の整備」という。）についての基本となるべき方針に関する事項（以下「河川整備基本方針」という。）を定めておかなければならない

### (河川整備計画)

第一六条の二 河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画（以下「河川整備計画」という。）を定めておかなければならない

- 平成9年に河川法が改正され、「河川整備基本方針（**長期的な河川整備の方針**）」と「河川整備計画（**当面の具体的な整備の計画**）」を策定することとなった。

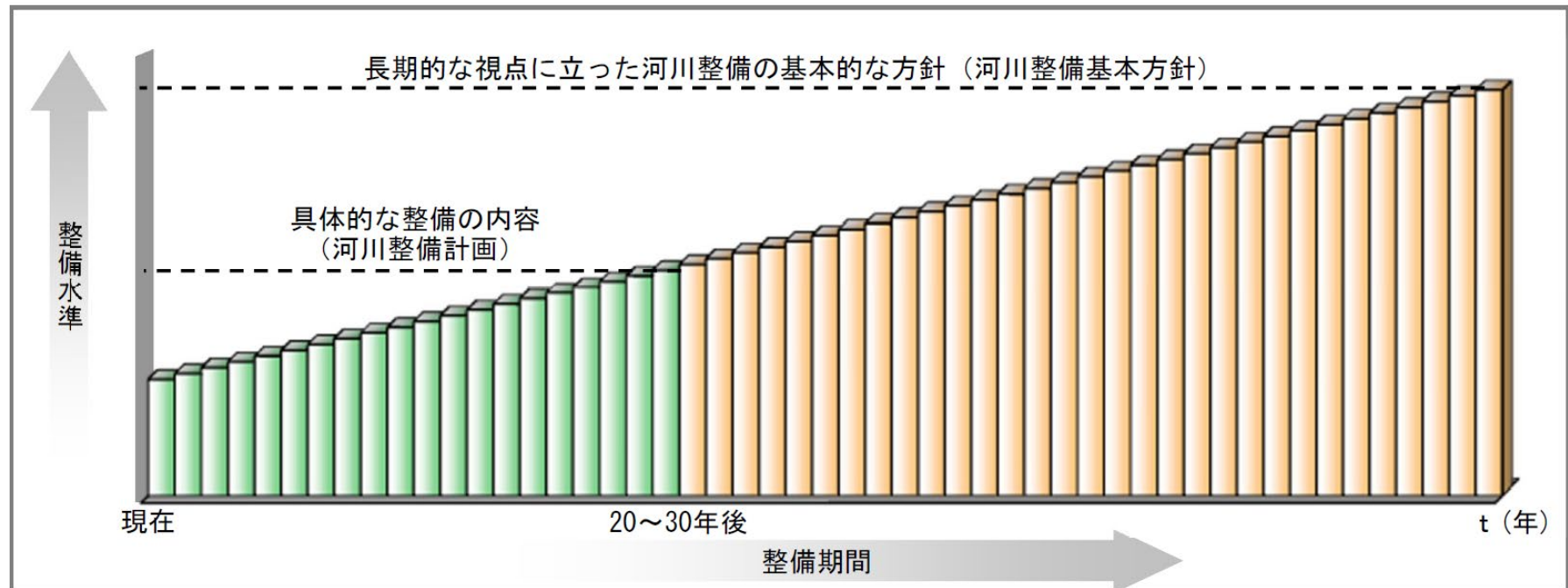
## 河川整備基本方針

- ①河川の総合的な保全と利用に関する基本方針  
長期的な視点に立った河川整備に関する基本方針を決定
- ②河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項  
個別事業など具体的な河川整備の内容を定めず、整備の考え方を記述

## 河川整備計画

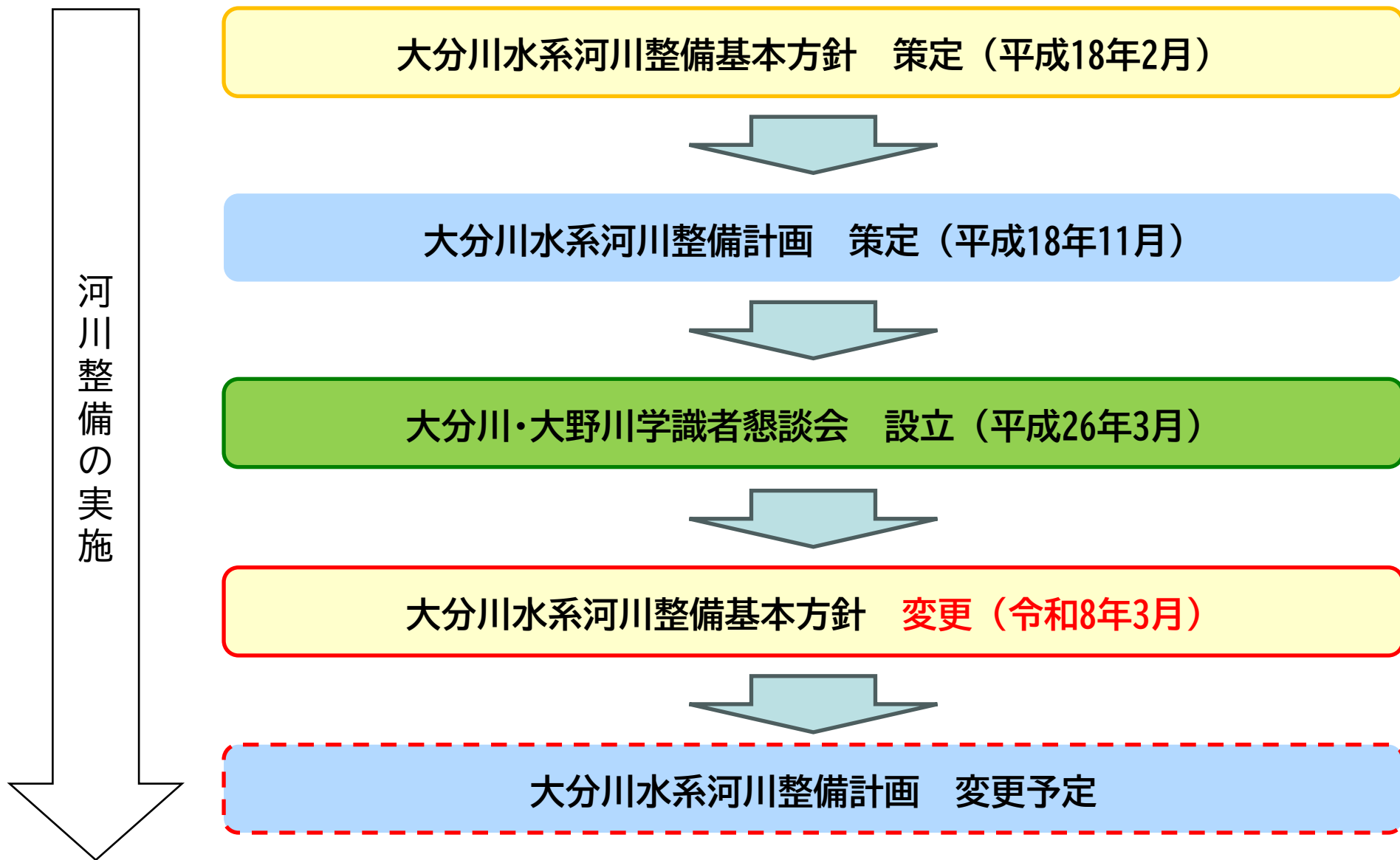
- ①河川整備の目標  
20～30年後の河川整備の目標を明確にする
- ②河川整備の実施に関する事項  
個別事業を含む具体的な河川の整備の内容を明らかにする

河川整備計画における段階的な整備にあたっての目標イメージ図



# 大分川水系河川整備基本方針 変更について

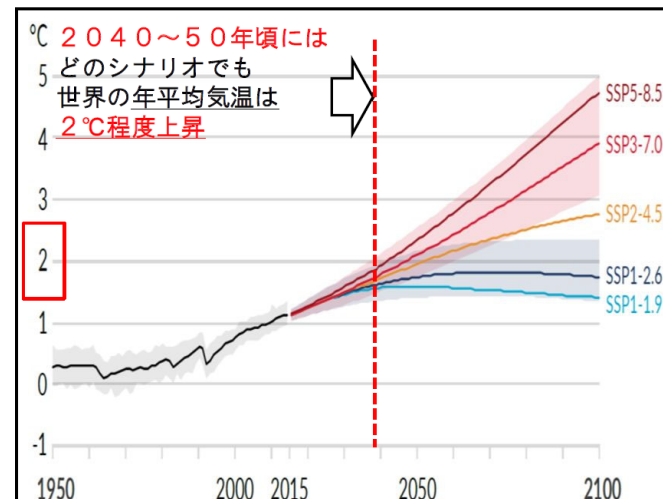
# これまでの経緯（計画の策定・変更等）



# 気候変動を踏まえた治水計画の見直し

## 気候変動を踏まえた治水計画のあり方

- ▶ 年平均気温上昇を2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算  
 現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り
- ▶ 河川整備計画等についても、気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要



## 気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

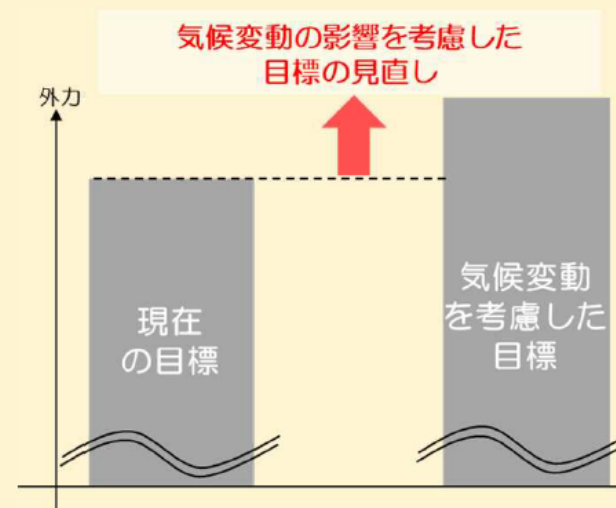
※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ(パリ協定が目標としているもの)

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模(1/100等))
2℃上昇相当	約1.1倍

↓ 降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100~1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値

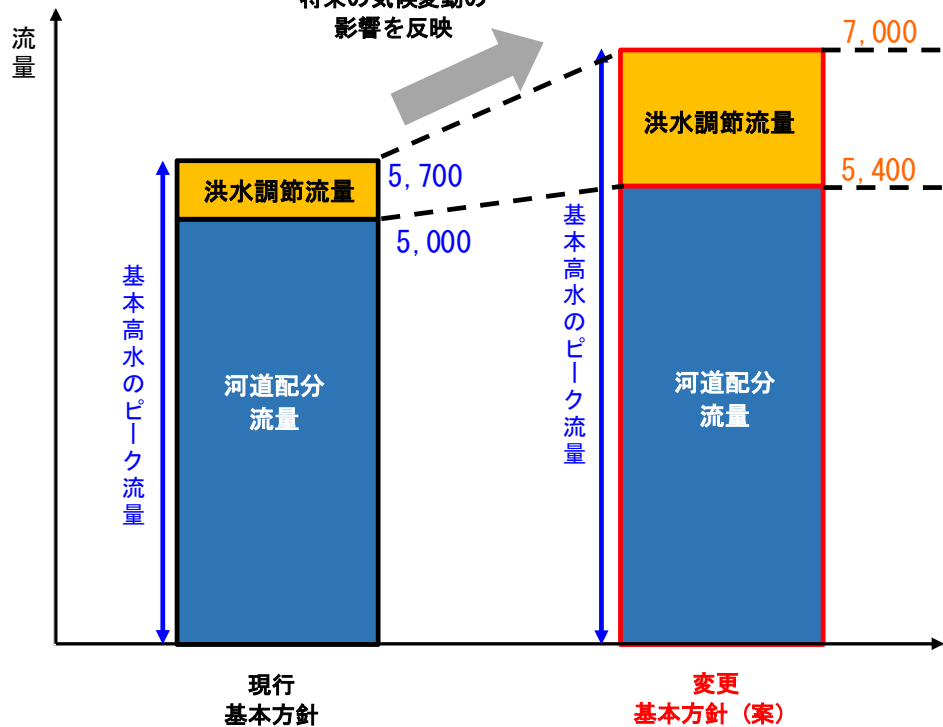


- 気候変動による降雨量の増加等を考慮し設定した基本高水のピーク流量7,000m<sup>3</sup>/sを、流域内の洪水調節施設等により1,600m<sup>3</sup>/s調節し、河道への配分流量を5,400m<sup>3</sup>/sとする。

## 河道と洪水調節施設等の配分流量

洪水調節施設等による調節流量については、流域の土地利用や雨水の保水・貯留・遊水機能の今後の具体的取り組み状況を踏まえ、基準地点のみならず流域全体の治水安全度向上のため、具体的な施設配置等を今後検討していく。

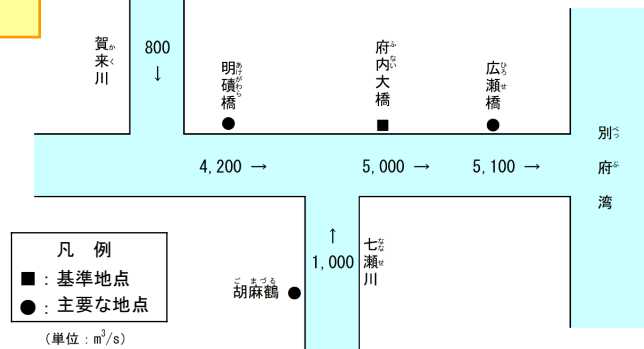
基準地点 府内大橋



※1/100の安全度は維持

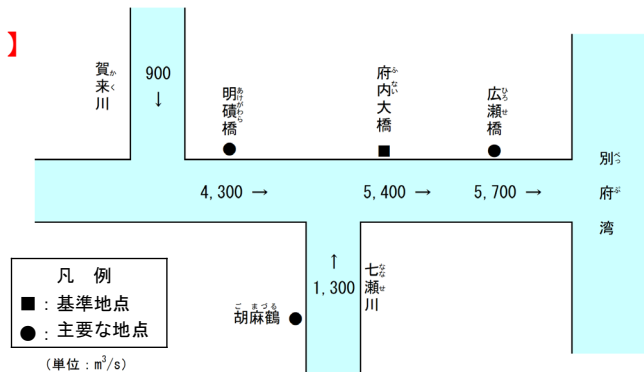
## 大分川計画高水流量図

【現行】



	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /s)
府内大橋	5,700	700	5,000

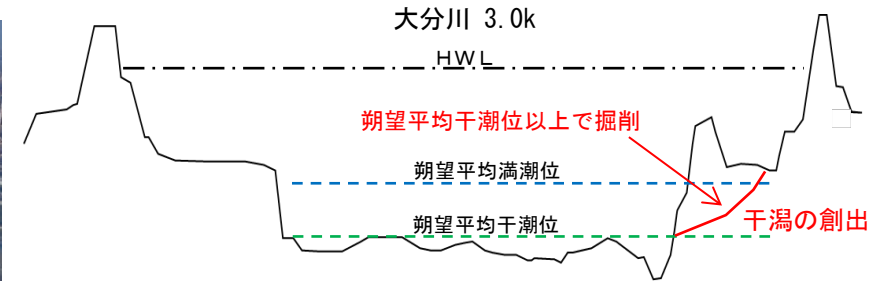
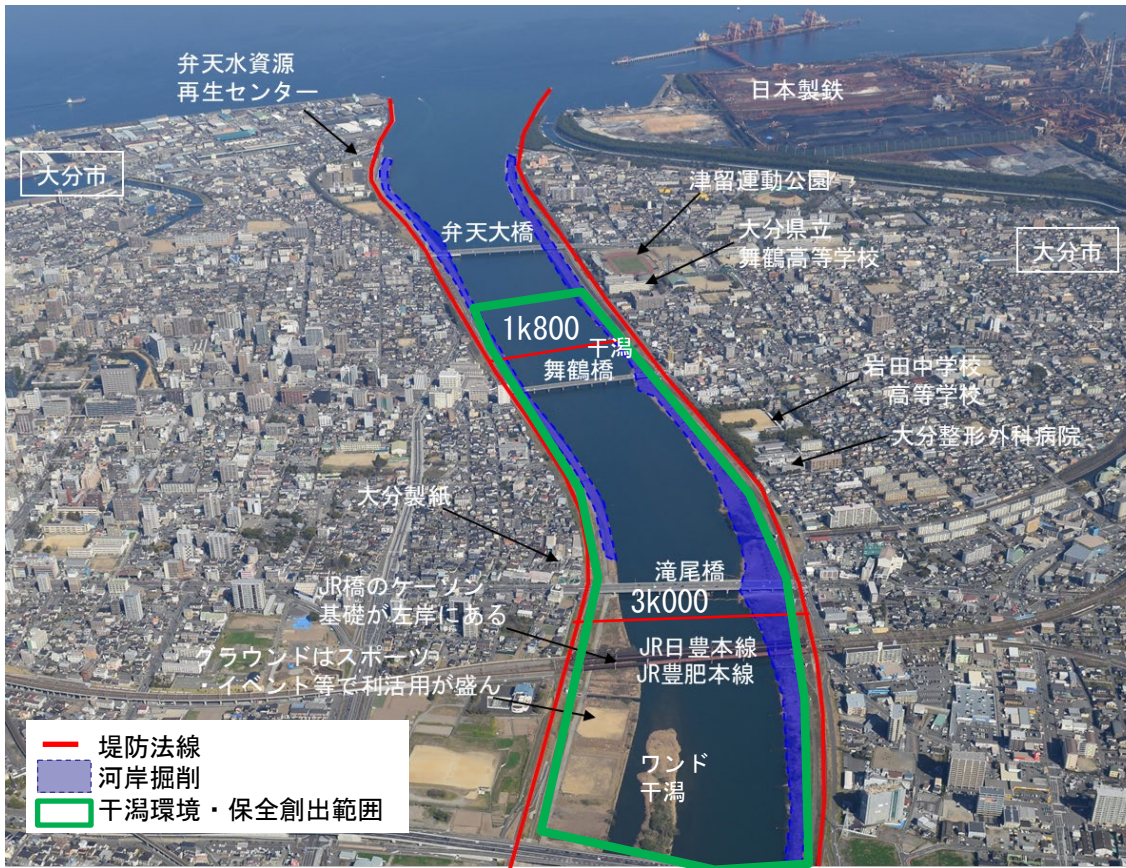
【変更(案)】



	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設等による調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /s)
府内大橋	7,000	1,600	5,400

# 河道配分流量増大の可能性

- 流下能力が不足する河口部付近において、河道配分流量増大の可能性について検討した。
- 大分川下流市街部の堤防は概成しており、背後地は宅地や事業所等が密集していることから、引堤による河道配分流量の増大は社会的な影響が大きい。
- 舞鶴橋上流右岸側には、かつて広がっていた干潟がわずかに残り、シオググが生育する干潟ではコチドリやヒモハゼ、絶滅危惧種のハクセンシオマネキ等が生息・繁殖するほか、ヨシ原はオオヨシキリ等の生息・繁殖場となっており、干潟環境の保全・創出が必要である。
- 干潟環境の保全・創出範囲下流側の河口部付近で河道掘削を行うと、河床の安定性が確保されず再堆積が予見される。
- 以上のことから、干潟環境の保全・創出範囲は朔望平均干潮位以上の掘削とし、基準地点府内大橋5,400m<sup>3</sup>/s相当の流下能力確保が可能であることを確認。

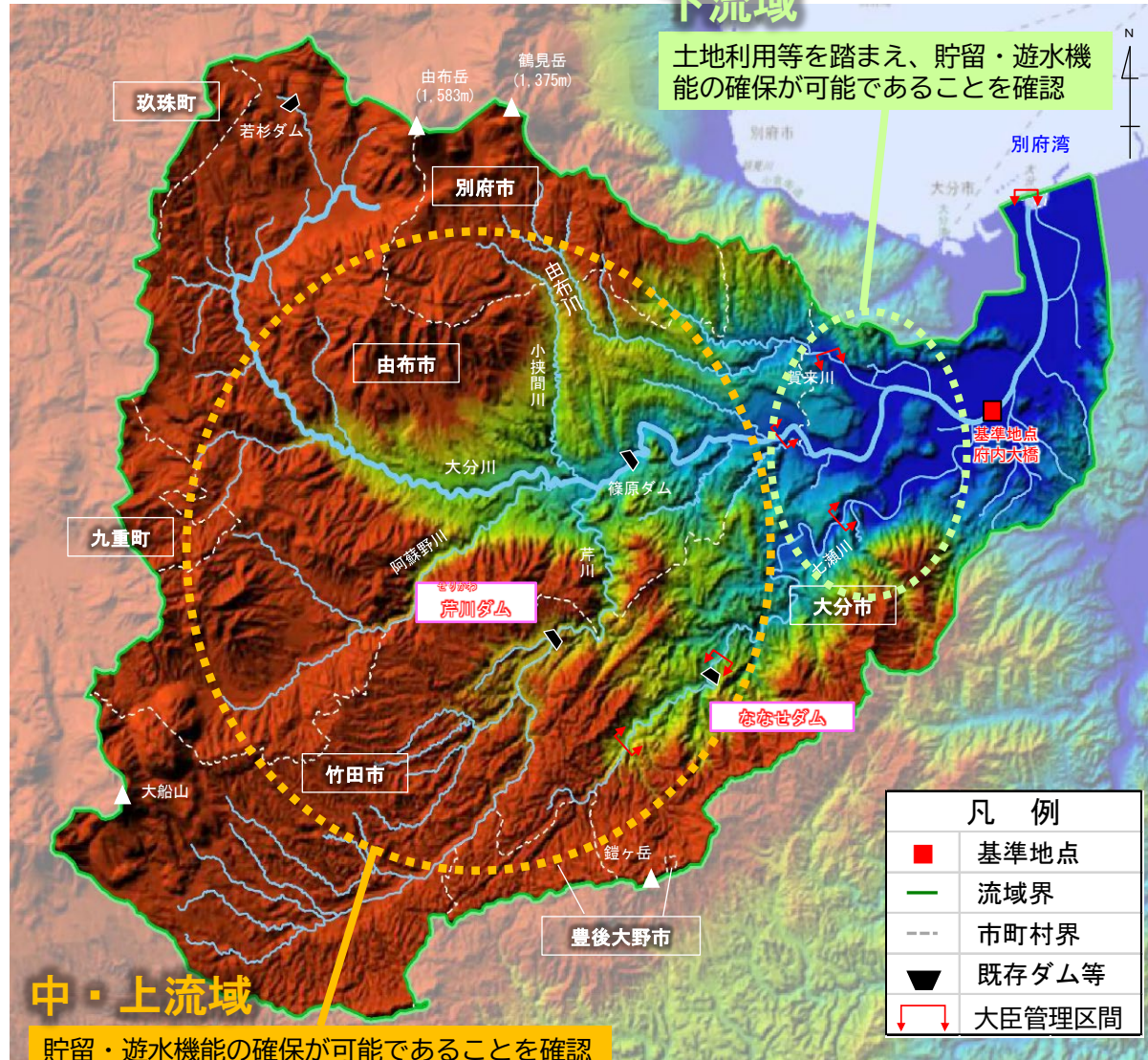


大分川3.0k右岸近景

# 大分川の洪水調節施設等 貯留・遊水機能の確保

- 今回見直しを行う基準地点府内大橋における基本高水のピーク流量7,000m<sup>3</sup>/sに対応するため、ダム再生など既存施設の有効活用や新たな貯留・遊水機能の確保について検討を行い、1,600m<sup>3</sup>/sの洪水調節が可能であることを確認。

## 流域段彩図



## 貯留・遊水機能の確保



## 大野川水系河川整備計画 変更について

# これまでの経緯（計画の策定・変更等）

河川整備の実施

大野川水系河川整備基本方針 策定（平成11年12月）



大野川水系河川整備計画 策定（平成12年11月）



大分川・大野川学識者懇談会 設立（平成26年3月）



大野川水系河川整備計画 変更（平成26年12月）



大野川水系河川整備基本方針 **変更**（令和5年12月）

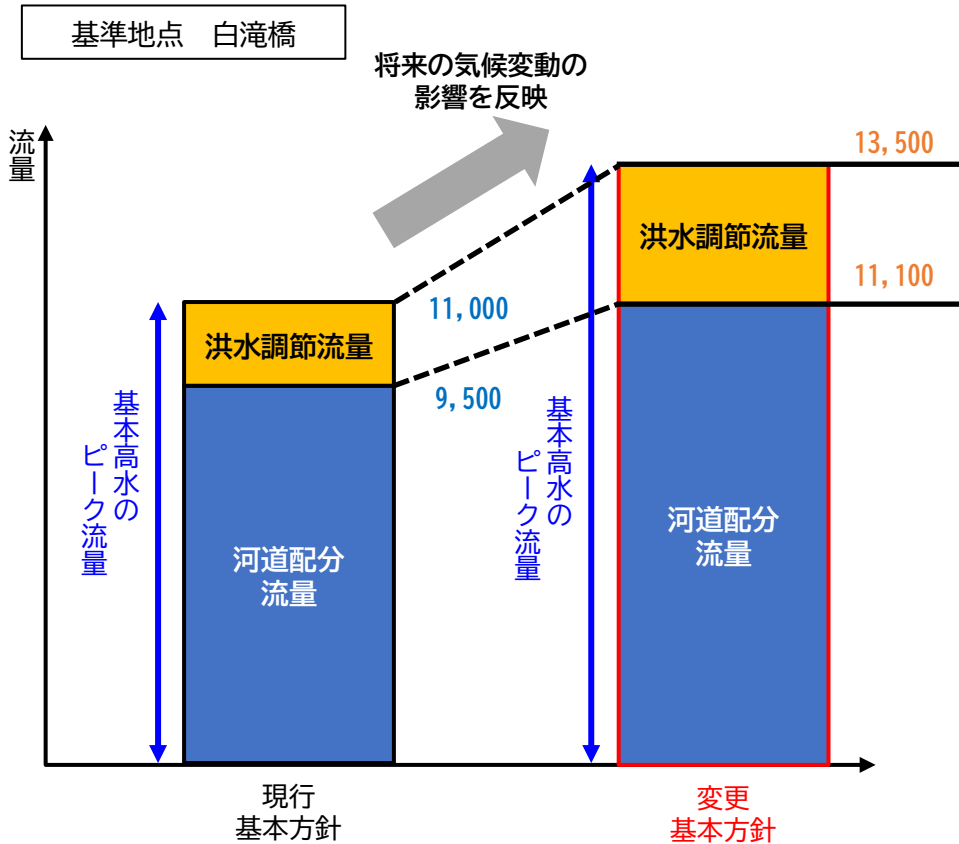


大野川水系河川整備計画 **変更**（令和8年3月）

○気候変動による降雨量の増加等を考慮し設定した基本高水のピーク流量白滝橋地点13,500m<sup>3</sup>/sを、流域内の洪水調節施設等により2,400m<sup>3</sup>/s調節し、河道への配分流量を11,100m<sup>3</sup>/sとする。

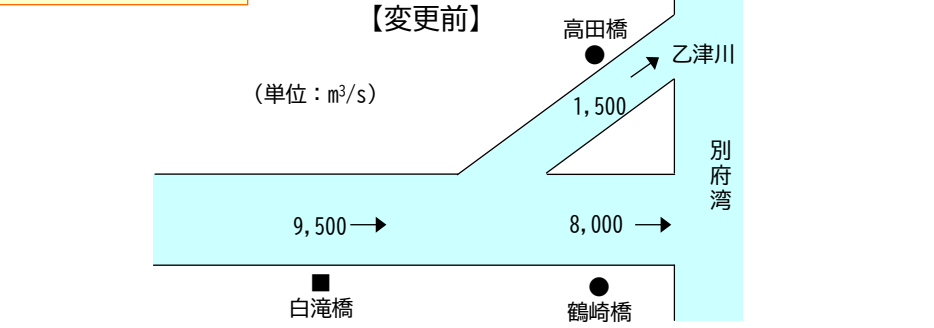
## 河道と洪水調節施設等の配分流量

洪水調節施設等による調節流量については、流域の土地利用や雨水の貯留保水遊水機能の今後の具体的取り組み状況を踏まえ、基準地点のみならず流域全体の治水安全度向上のため、具体的な施設計画等を今後検討していく。

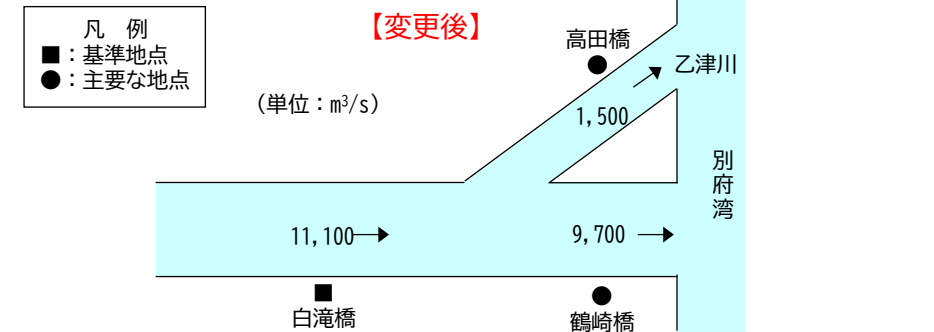


※基準地点白滝橋の計画規模1/100は踏襲

## 大野川計画高水流量図



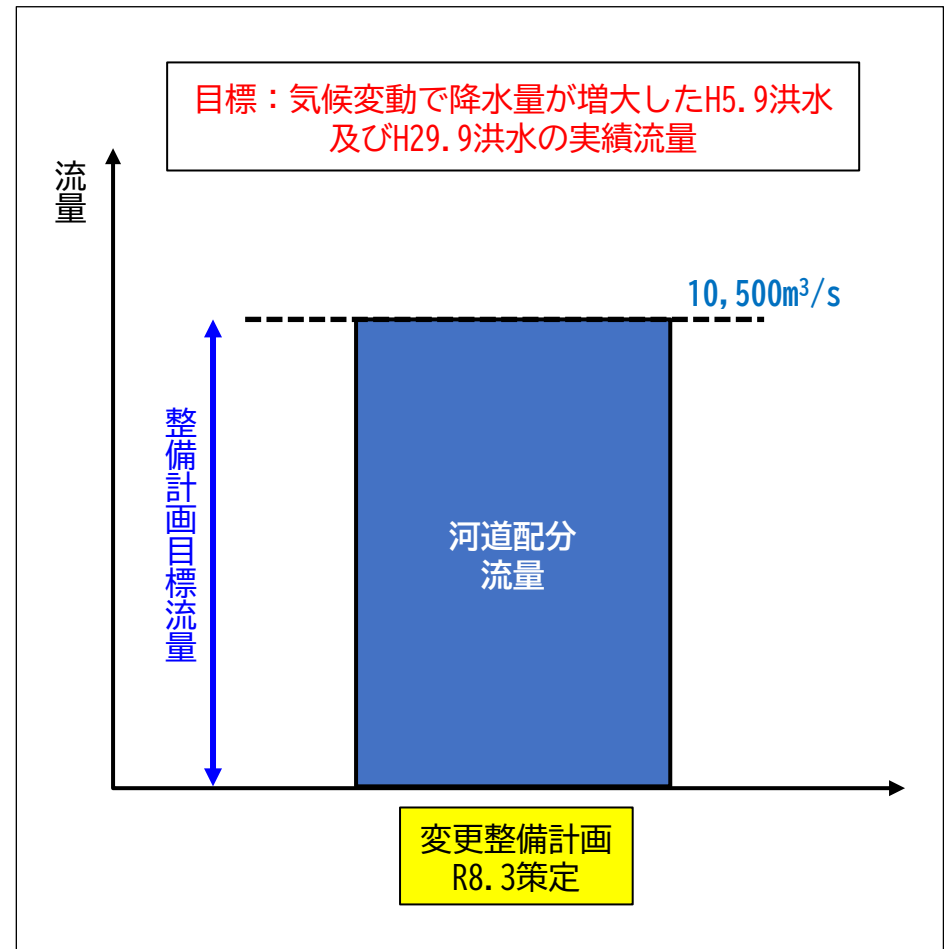
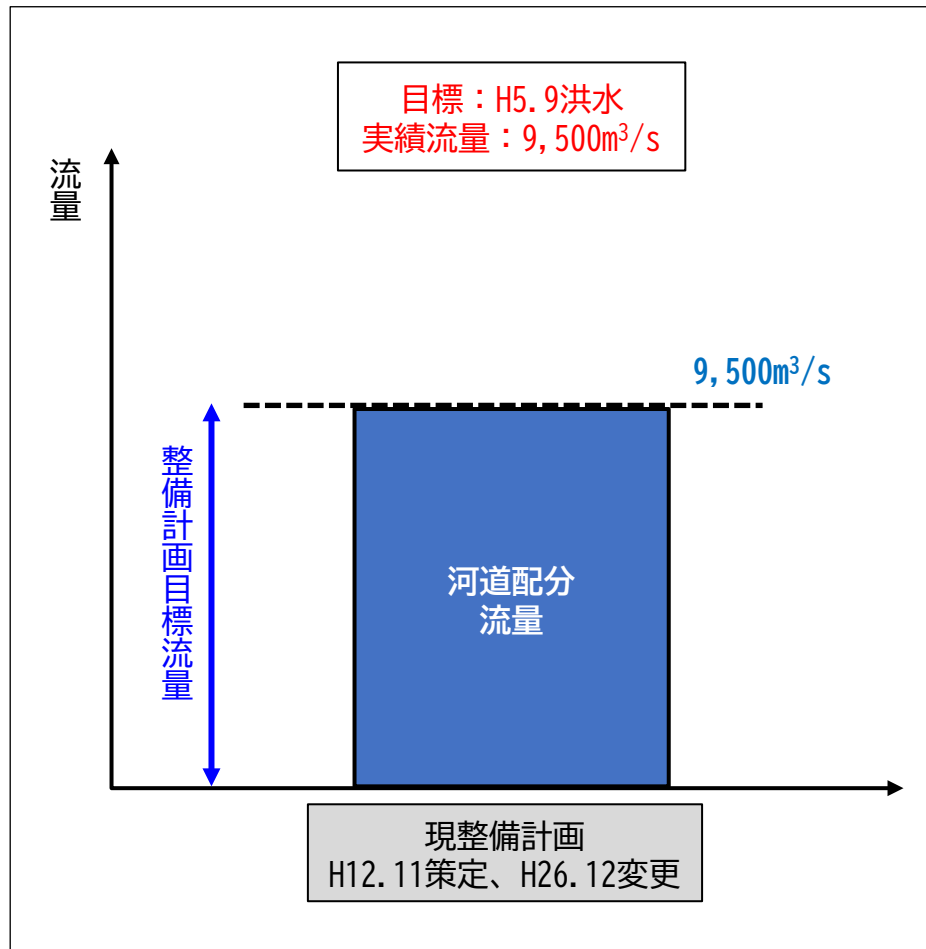
	基本高水のピーク流量(m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量(m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量(m <sup>3</sup> /s)
白滝橋	11,000	1,500	9,500



	基本高水のピーク流量(m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設等による調節流量(m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量(m <sup>3</sup> /s)
白滝橋	13,500	2,400	11,100

## 現行整備計画との関係について

- 今回の変更整備計画では、気候変動の影響により降水量が増大した場合でも、現計画の目標規模（平成5年9月実績洪水）及び観測史上最大となる平成29年9月洪水を整備完了時に確保することが可能



# 大野川水系河川整備計画

## 整備箇所位置図

➤ 更なる安全度の向上に向け、河川整備の目標を達成のために実施する河川整備の主な実施内容を下図の通り変更

